

## 研究の経過と概要

### 1、研究テーマ

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導～言語活動の充実を通して～

### 2、研究の経過と概要

東山梨地区国語科教育研究会では、生徒の実態を踏まえて平成23年度より上記のようなテーマで研究を行ってきた。コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において、生徒にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断し必要な情報を取捨選択していく力が、今まで以上に重要なものとなってくる。国語科の果たす役割は益々大きなものとなっていくだろう。

本部会では、小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっている。それぞれの部会ごとの研究に加えて、夏季は小学校の授業を、冬季は中学校の授業を参観し合うことで、子ども達の発達段階に応じた指導方法を学び合っている。小中の連携を今後も深めていきたい。

### 3、今年度までの授業実践の経過

年度	授業実践の内容
26年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・小説を読もう～話のその後は？「物語の続きを考えてみよう」</li></ul> ～読んだことを基に、仲間と感想を交流し、物語のその後を想像して書く～ 山川方夫氏の「夏の葬列」を題材に、場面ごと疑問点や気になった点を確認しながら、話の今後の展開を考える授業を行った。仲間の読みを知り、自分の読みをふり返ることができ、考えの根拠を文章中に求めることを意識させたことで、より丁寧な読み取りへとつながった。物語の続きを書くことは、心情の変化をしっかりと捉えておく必要があるため、深い読みをするためには、とても有効な手段であった。
27年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・「挨拶」を読み、意見を交流しよう</li></ul> ～意見交流から、自分の考えをまとめよう～ なぜ作者は「挨拶」という題名をつけたのか作者の思いを捉え、意見交流をし、自分の考えをまとめる授業である。「ワールドカフェ」という話し合いの手法を用い、生徒それぞれが持っている知識や考えなどを活用し、他者とのかかわりを通して自分の考えを深めることができた。授業のはじめに「わからない」と書いた生徒も、交流後に自分の考えを持つことができ、有効な手立てであった。 <ul style="list-style-type: none"><li>・「ワールドカフェ」の手法を用い、考えを広げて、文章を書く</li></ul> 「ヤクーバとライオン」という自主編成教材を用い、話し合いの中で自分の考えを広げ、自分の考えを文章に書き表すという実践。
28年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・「言葉」についての二つの文章を読み比べることを通して、自分の考えを深めよう</li></ul> 大岡信氏と池田晶子氏の「言葉の力」を読み、3～4人グループの話し合い活動を通して、筆者それぞれの「言葉についての考え」をつかむ。池田氏の「言葉とは自分そのものだ」という考えについて、自分自身の具体的なできごと置きかえ、自分にとって言葉とは何かという意見を持たせることにつなげていった。個人から3～4人の

小グループ、そして全体へと段階的に意見交流を行わせることで考えを深めながら、言葉について自分の考えを持つ授業を行った。（本日提案）
---

#### 4、今年度の研究について

今年度は、小学校・中学校それぞれ研究を進めてきた。研究授業については合同で行い、お互いの授業を参観し合って、学び合っている。9月には、小学校部会の授業を参観し、詩の音読指導について研究を行った。中学校部会では作文の推敲を通して、書くことの授業を、2月に公開する予定である。

#### 5、本年度研究部員

部長 小野渚（山梨南中）

副部長 広瀬康子（大和中）

部員 奥山彩佳・佐藤彩奈（山梨南中）

厚芝瑞穂・糠信恵理香・鮎澤智美・上野達也（山梨北中）

根岸喜久恵・数野透・川崎真理子・岡沙矢佳（塩山中）

横森梨歌・小林史奈（塩山北中）

佐久間潤（松里中）

田辺秀樹（勝沼中）

指導助言 広瀬真次校長先生（塩山北中）

齋藤昌志校長先生（玉宮小）

渡辺良仁教頭先生（山梨北中）

網野勝朗教頭先生（大和中）

## 本文

### 【概要】

本実践は、大岡信氏と池田晶子氏の「言葉の力」を読み、筆者の主張とエピソードの関連を考えながら、言葉について自分の考えを持つことを目的としたものである。授業のはじめに、エピソードは何を伝えるためのものであるかを着目させながら、大岡氏の「言葉の力」を読み、大岡氏の言葉についての考えを読み取る。次に池田氏の「言葉の力」を読み、池田氏の言葉についての考えを読み取る。3～4人のグループで考えを交流する中で、考えを広げたり深めたりしながら、生徒に自分なりの「言葉」についての考えを持たせていった。

1 目指す言語能力

筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める力（読（1）ウ、エ）

2 教材名

「言葉の力」（光村図書 2年）

3 生徒の実態

山梨県の学力把握調査における学年の平均正答率は76.1%で県平均72%より4%上回っていた。領域に着いては「読むこと」において県の平均正答率を下回っていた。評価の観点も、「読む能力」において、県の平均正答率を下回っていた。どちらにおいても、「読むこと」において県平均より下回っていること、また、正答率も他の領域に比べてかなり差がある。調査の結果から、「読むこと」の力が定着していないことがわかる。語彙の意味を理解し、文章に表れた作者の思いや筆者の考えをより深く読みとる力には個人差がある。また、記述式問題においては、とりあえず書くことはできるが、文章を読み取って、文中の言葉を使ってまとめることに対しては苦手な生徒が多い。正確に伝えるための言葉を組み立てて書く活動に対しては、消極的になる傾向がある。その改善を目指して、次のとりくみをおこなってきた。

- ・授業では音読を取り入れることで、言葉の意味を意識させる。
- ・1時間の授業の目標を意識させ、授業の終わりには授業のまとめをする。

9月から10月まで、言葉を意識させるため、授業の最後でクラスの仲間の頑張りを認める活動を取り入れていた。「わからなくて答えが違っていてもどうどうとしていた」「みんなが反応していないときに、手を挙げて発言していた」と具体的な表現のできる生徒は僅かである。「良く話を聞いていた」「発言をたくさんしている」など、その生徒個人をきちんと見て、その生徒にふさわしい言葉で具体的に表現することができない。この活動を継続していく中で、さまざまな表現方法があり、わかりやすく具体的な表現の工夫について意識させてきた。

また、授業の前に「言って後悔している言葉」「言えば良かった言葉」「言ってほしかった言葉」「言われてうれしかった言葉」「元気が出た言葉」「言葉についてどう思うか」について、振りかえらせた。この授業をきっかけに、どんな思いで言葉を発するのか、相手はどんな思いで受け止めるのか、ちょっと立ち止まって考えることができるようになってほしい。

4 教材について

「言葉の本質は、口先や語彙だけのものではなく、それを発した人間全体の世界を背負うものである」という筆者の言葉に対する考えを、染織家志村ふくみさんのエピソードによって、印象深く述べられた文章である。

「美しい言葉」はそれを発する人が全身で作り出すものであり、ささやかな言葉にも大きな意味があるという筆者の考えを読み取り、自分を取り巻く言葉について改めて考えさせたい。

また、「言葉」について述べられた池田さんの文章も紹介し、言葉のもつ力について自分の

考えを深めさせたい。

本指導計画において意識させたい「5つの言語意識」

- 目的意識 : 自分の考えを深めるために
- 相手意識 : 学級の仲間に向けて
- 方法意識 : 表現方法に着目し、その意味を考える方法で
- 場面状況意識 : 文章を読む場面で、意見交換し合う場面で
- 評価意識 : 表現から主題を捉えたか、表現の効果について考えたか

## 5 日常の取り組み

- ・朝の読書活動
- ・学習振り返りシートの記入

## 6 指導の目標

- ・エピソードと筆者の考えとの関連を捉え、筆者の考えを読みとる（読むこと ウ）
- ・筆者の言葉に対する考えに対して自分の考えをもつ（読むこと エ）

## 7 指導と評価計画

### (1) 評価基準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語のについての 知識・理解・技能
・筆者の主張の内容や文章の構成、展開等に興味を持ち、言葉について自分の考えをまとめようとしている。	・筆者の主張とエピソードの関連を考え、筆者の考えを読み取っている。 ・言葉についての自分の考えをもっている。	・言葉と桜の花びらとの関係をつかむ言葉に着目している。 ・重要語句の意味を的確に理解している。

### (2) 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	てだて
1	○言葉に対する自分の考えを振り返る。 ○言葉に対する筆者の考えを読み取り、ノートに書く。 ○文章を三つのまとまりに分け、内容をまとめる	・一人一人が言葉についての自分の経験を振り返られるようにする。 ・三つの内容の中心となる文や言葉に着目できるようにする。	・中心となる文を見つけることを意識させる。 ・桜の花びらと言葉との関係を考えさせる。

2	○三つのまとまりの内容を確認する	・エピソードと筆者の考えのつながりを考えられるようにする。	・自分の体験を思い出させ、筆者の考えと似た場面はなかったか考えさせる。
本時	○大岡さんの考えを読み取る。  ○もう一つの「言葉の力」（池田晶子）を紹介し、「言葉」についての自分の考えをまとめる。	・自分の体験を振り返りながら、池田さんの考えをつかむことができるようにする。	

## 8 本時の展開

- (1) 日時 平成29年2月8日（水）
- (2) 場所 2年5組教室
- (3) めあて
  - ・言葉についての筆者の考えを読みとる。
  - ・言葉に対して自分の考えをもつ。
- (4) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	1 今日の授業の「めあて」をつかむ  <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; display: inline-block;">           言葉は である。         </div>	目標をつかむ。 「言葉について自分の考えをもつ」	
	2 「言葉の力」の三つのまとまりの内容を確認する。 (まとまりごとに音読し、それぞれの内容を確認する)  第一のまとまり 言葉は人間全体を背負っている。  第二のまとまり 木全体の休むことない活動の精髓が、春という時節に、桜の花びらのピンクとして現れる。  第三のまとまり 言葉は人間全体を背負っていると考えて、言葉を使おうとすれば、美しい言葉、正しい言葉は身近になる。	今日の目標を意識して、音読させる          エピソードと筆者の考えとのつながりを意識させる。	言葉を意識して音読できたか。(音読)

<p>展開</p>	<p>3 大岡さんの言葉についての考えをつかむ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">言葉は人間全体を背負っている。</p> <p>4 もう一つの「言葉の力」(池田晶子)を読み、「言葉」についての池田さんの考えをつかむ。</p> <p>個人で考える。</p> <p>班で話し合う。</p> <p>全体で確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">言葉は、自分そのものなのだ。</p> <p>5 「言葉は、自分そのものなのだ。」とはどういうことか、自分の身の回りのできごとから考える。</p> <p>自分の考えを書く。</p> <p>班で話し合う。</p> <p>全体で発表する。</p> <p>6 自分にとって言葉とは何か。またその理由を書く。</p> <p>「言葉は                      だ。」</p> <p>自分の考えを書く。</p> <p>班で発表し合う。</p> <p>全体で発表する。</p>	<p>筆者は「言葉」についてどう考えているかに着目させる。</p> <p>エピソードは、何を伝えるためのエピソードであるか 着目させる。</p> <p>資料1を配布し、資料に線をひかせる。</p> <p>個人→3から4人グループ</p> <p>出た意見の根底にあるものに着目させる。</p> <p>学習プリントを配布し、プリントに記入させる。</p> <p>学習プリントに記入させる。</p> <p>(自分の体験から考えさせる)</p> <p>(言葉について書いたプリントを参考にさせる。)</p> <p>個人→3から4人グループ</p> <p>学習プリントに記入させる。</p> <p>個人→3から4人グループ</p>	<p>大岡さんの言葉についての考えをつかんだか。</p> <p>(発表など)</p> <p>池田さんの言葉についての考えをつかんだか。</p> <p>(学習プリント)</p> <p>自分にとって、言葉とは何か考え、書くことができたか。</p> <p>(学習プリント)</p>
-----------	---	--	---

まとめ	<p>7 本時を振り返り、学んだことを確認する。</p> <p>「言葉は だ。」</p> <p>言葉は友達だ。言葉は自分を映す鏡だ。 言葉は自分を成長させるものだ。</p>	デザインシート（振り返りシート）に記入する。	今日の授業のポイントをつかめたか。（デザインシート）
-----	--	------------------------	----------------------------

#### (5) 評価基準

- ・ 筆者の主張とエピソードの関連を考え、筆者の考えを読み取っている。
- ・ 言葉についての自分の考えをもつことができている。

授業を振り返って

#### 課題

- ・ 1時間の内容としては多かったため、生徒の考える時間、思考を深める時間の確保が充分でなかった。展開をもう少し工夫する必要があった。
- ・ 大岡さん、池田さんの言葉に対する主張をもう少し丁寧に読み取るべきであった。それぞれの考えを、生徒の体験を振り返らせながら、読み取ることも大切にすべきであった。
- ・ 言葉に対する池田さんの考えを、生徒同士で意見を言い合う場面も必要であった。

#### 成果

生徒はうまく言葉に表現できてはいなかったが、1時間自分なりに言葉について真剣に考えていた。「書くこと」「考えること」はこの時間の中でできたと思う。

授業の前と後の感想を比較すると、最初の言葉に対する考えから抜けきれない生徒もいるが、自分と言葉について目を向けることができた生徒もいる。言葉に対して考えを深めることはできたと思う。これからの生活の中で、言葉を意識しながら生活することにつなげていきたい。

## 生徒から出た考え

\*「言葉とは自分そのものなのだ」とはどういうことか。自分の体験から考えて書きましょう。

- ・相手に悪いことを言ったあと、鏡に映っていた自分は怖い人だった。
- ・言葉が雑な人は、生活態度に現れる。
- ・友達に「～だよな」と聞かれたとき、「まあだいたいでもいいや」と具体的にしっかりこたえられないことがよくある。適当に考えてしまう自分が出た。人柄がでる。
- ・いつも優しい人は、人が嫌な思いをすとも思ったことは言わない。
- ・言葉をはっきり伝えられる人は、自分に自信がある。言葉を言えない人は自分に自信がない。
- ・言葉を丁寧に扱っている人は生活もしっかりしている。言葉を雑に扱っている人は生活面でも落ち着きがない。
- ・「できない」と思うと余計に気持ちが落ち込む。
- ・面倒なことがあると、「めんどろ」と言ってしまう。
- ・気持ちが上がっているとき、声が出るが、気持ちが下がっているときは声が出ない。
- ・忙しくて心に余裕がなかったときに、人に聞かれても、素っ気なくこたえてしまう。

\*あなたにとって、言葉とは何ですか。「言葉は　　だ」という形で書きましょう。

言葉は生き方だ。

言葉は魔法だ。

言葉は自分を成長させてくれるものだ。

言葉は友達だ。

言葉は自分に返ってくるのだ。

言葉は心。

言葉は「自分」や「相手」をつくる。

言葉は人間だ。

言葉は感情だ。

言葉は不思議だ。

言葉は正直だ。

言葉は自分の鏡だ。

言葉は人をつなぐ。

言葉は支えだ。